



スルホニルウレア(SU)系除草剤 抵抗性雑草の発生と対策

水田用の一発処理剤は、2～4種類の除草剤成分により製品化されています。このうちのSU系成分*は非イネ科および多年生雑草に有効であり、現在流通している一発処理剤のほぼ全てに含有されています。

しかし、最近このSU系成分に抵抗性をもった雑草の発生が確認されています(図1)。

抵抗性雑草が出現した原因は、SU系成分を含有した同一の除草剤を継続使用したことによると考えられます。

抵抗性雑草が発生した場合、SU系成分以外の有効成分(表1)を含有した除草剤を使用するとともに、必要に応じて中後期剤(ベンタゾン含有した剤)の使用、稲刈取後の後次発生への対策(耕耘、水田刈跡用除草剤の散布等)を行い、土壌中の種子密度を低下させる必要があります。

* ベンスルフロンメチル、ピラゾスルフロンエチル、イマゾスルフロン、シクロスルフアムロン、エトキシスルフロン、ハロスルフロンメチルがあります。

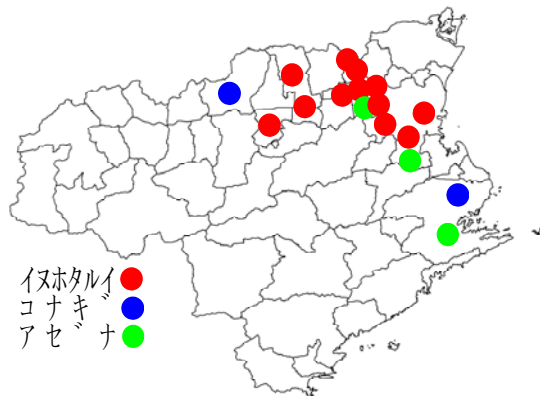
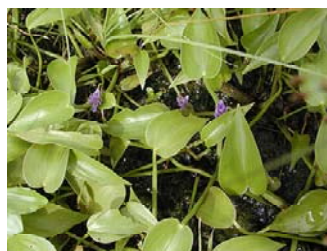


図1 SU剤抵抗性雑草の発生状況(平成17年12月現在)



イヌホタルイ



コナギ



アゼナ

表1 SU系成分以外の有効成分

草種	有効成分
ホタルイ	ベンゾピシクロン, プロモブチド
コナギ	ベンゾピシクロン, プロモブチド, クロメプロップ
アゼナ	クロメプロップ, カフェンストロール, テニルクロール, プレチラクロール, ペントキサゾン

問い合わせ先

徳島県立農林水産総合技術支援センター 農業研究所 栽培システム担当

TEL (088) 674-1660

FAX (088) 674-3114

<http://www.green.pref.tokushima.jp/nogyo>